

## 長野市立塩崎小学校



- (1) 学級数 14 学級
- (2) 児童数 男子 169 名 女子 147 名 計 316 名
- (3) 職員数 25 名
- (4) 学校紹介

<http://www.nagano-ngn.ed.jp/shiozajs/index.html>

本校は長野市の南部、千曲市との境に位置し、東の千曲川と西の山地に挟まれた自然豊かな場所に立地している。塩崎地区は、古くは善光寺街道の間の宿として栄えた地区である。地域の中の拠点として、大きな期待を受け続けてきている。

学校教育目標を「ふるさと『塩崎』の心をたずね自らひらく子」とし、学校、地域の特色を大事にしながら、子どもたちに豊かな学力をつけていくことを掲げている。学校教育目標の具現にあたり、「ふるさと塩崎を体験的・体感的に学ぶ」「課題をもって意欲的に学ぶための授業改善」を大切に考えている。また、この教育目標の「自らひらく」は、子どもが自主的・自発的に活動し、自己実現に向かう姿を願うものである。

本校の学級は「東組」「中組」「西組」と名づけられている。(現在は東・西の 2 学級編成) これも昔からの伝統を大事にしてきた本校の一端を表すものであるといえるだろう。

### (5) 大会テーマの受けとめと研究のねらい

本年度は全校研究テーマを「自ら学ぶ力を育てる学習指導」とし、子どもたちの学びの姿から実態を受けとめ、よりよい学習指導を追究してきた。

社会科では研究テーマを「わたしたちの『塩崎』について、自分の思いや考えを表現したくなる社会科学習のあり方」とし、研究に取り組んでいる。

自分たちの住んでいる土地について、そのよさを自覚することは難しい。そこでの生活が日常になっていることによって、目の前にある「もの」や「こと」が見えなくなってしまうことがあるからだ。子どもたちにとって「塩崎」という地区のよさは、実感はあるものの、まだまだ意識できるレベルには達していないと考える。このよさに気づくのは、他の地域で生活をして、比較ができるようになってからではないだろうか。だとすると、現在塩崎に暮らす子どもたちに必要なことは、地域と思い切りかかわり、その場所や自分の行為について深く思いをめぐらせることではないかと考える。また、体験と自分の思いから、社会的事象について自分なりの考えをもち、それを表現していくことによって深まりも生まれてくるのではないだろうか。

大会テーマの「広い視野をもち」を実現するためには、さまざまな教育活動を通して、十分に素材とかがわり、自分の思いや考えをもち、互いに表現しながら深め合う経験を積み重ねていくことが大切なのではないかと考える。その過程の中で、視覚的イメージがどのようにかがわり、役立つかを見極めたい。子どもたちが使う視覚イメージを大切にすることで、素材とのかかわりがどのように深まっていくのかを研究したい。

### (6) 日常的な活用

#### ○ パソコン教室

パソコン教室には児童用のデスクトップパソコンが 30 台設置されており、調べ学習などに利用されている。また、本校でここ数年継続的に取り組んでいる「頭を育てる算数」(信州大学元教授 大下眞二郎先

生)は、主にパソコン教室で実施している。

#### ○ 教室で利用できる機器

各教室には、学年で3(4)台のパソコンが配置され、教室の教科学習に活用されている。大型液晶テレビやプロジェクター、スマートボード等に接続し、視覚的な効果を高めている。また、実物投影機の活用も活発に行われている。



#### ○ デジタルカメラ

17台のデジタルカメラは、パソコン教室に保管され、子どもたちの学習に積極的に活用されている。社会見学などではグループに1台ずつ持たせ、自分たちで撮影した写真を用いてまとめに活用している。

教科学習だけでなく、委員会活動やクラブ活動などでの活用も多く図られている。

#### ○ 外国語活動への活用

今年度より配置された電子黒板(タッチパネル機能付き大型液晶テレビ)は、学習室に設置され、主に5、6年生の外国語学習に用いられている。

学習室には学校長自作の教材(ボードのイラストにタッチすると英語の音声が出るもの)がある。授業での活用だけでなく、休み時間に子どもたちが気軽に触れることができるように設置



されている。

#### (7) 研究を推進してきた現時点での課題

##### ○ 子どもたちが思いや考えを発表し、伝えたいようになるために必要なこと

- ・ 6月の事前授業(3年「3東 塩崎たんけんたい」)では、伝えたいという思いはあるものの、発表することへの抵抗や、発表のためのスキルに自信がないなどの理由から、発表をためらう子の姿が見られた。社会科に限らず、発表するための技能を高める必要がある。
- ・ 学級全体で「この問題を解決していこう」という明確な課題を設定することで、自分の思いや考えを表現したくなるのではないだろうか。単元全体を通して、どこでどのように必要感のある課題を設定するかが重要である。

##### ○ 視覚を「思いや考えを表現するためのツール」として利用することについて

- ・ 事前授業では、地域探検の時にデジタルカメラで撮った写真から、自分がみんなに紹介したいと思ったものを選び、発表した。共通の体験(=地域探検)を振り返るために有効なのではないかと考えたが、グループでの語り合いがあまり活発にはならず、十分実証できなかった。写真を撮る時の視点、見返す時の視点、比較する時の視点を具体的にすることによって、前回よりも「語り合うための」写真として機能するのではないかと考える。また、機器を使った発表の経験の積み重ねも必要であることが示唆された。